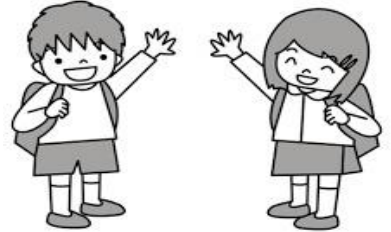


寺小だより

令和4年度 12月号 NO.9
富田林市立寺池台小学校
校長 阪上 佐智子
☎ 0721-29-1477

正門で四季を感じる

毎朝、正門で子どもたちの登校を受け入れています。子どもたちの安全を見守ったり、「あいさつ」を促したりするためでもあります。最近、めっきり寒くなりポケットに手を入れたまま登校してくる子どもが、ぽつぽつ見られます。「ポケットから手を出してよ。こけたら危ないからね」の声をかけながら、ああ今年も冬がやってきたと感じます。



2015©LDH

一年を通して正門にいと、四季の移り変わりを実感します。春は、まず桜の花が見事に咲きます。入学式までこのまま咲いていて、散らないでと、毎年ハラハラします。次に紫のモクレンの花、続いて白地にピンクのハナミズキが咲きます。見頃になると「この花、なんて言うの?」と聞いてくる子どもたちも多いです。初夏にはツバメが飛んできて、巣をつくることもあります。子どもたちの首筋や額の汗にも夏の到来を感じて、熱中症対策を始めます。日差しが強まり、セミの鳴き声が響き渡ると夏も本番です。サルスベリの花が咲き、「猿もすべるほど、つるつるの木(肌)だよ」と教えると、「知ってる!」と応えてくれた子もいました。秋は、様々な木がそれぞれ時期を変えて紅葉(黄葉)し、やがて落ち葉となっていきます。紅葉した美しい葉を拾って集める子もたくさんいます。太陽の高度の低さを感じると、すっかり冬支度です。子どもたちの服装は、厚めの上着や手袋が目立ってきます。

何気ない、当たり前四季の移ろいを感じる事ができる日常に、感謝の思いを強くします。平和であること、学校を支えてくださる保護者や地域の方がたくさんいらっしゃる事、そして何より元気に登校する子どもたちと一緒に、四季を感じられることに感謝です。

◎四角の中は、子どもたちも読みましょう。



すっかり、さむくなってきましたね。

さむさにまけず、じぶんから元気にあいさつしましょう。

手がつめたいときは、手ぶくろをつけてもいいですよ。

寺小ランニングもあとすこしです。冬にそなえて体をきたえましょう。